

乾田V溝直播 マニュアル



<R6産 重点対策ポイント>

- ・代かきの前に土壌改良資材及びリン酸、カリ肥料を施用する。
- ・4月中～下旬に、圃場がよく乾いた条件で播種する。
※種子がV溝の底に位置し、覆土されていることを確認
- ・出芽個体の半数が第2葉期になったことを確認して入水。
- ・入水後は、抑草効果と肥効を持続させるため、収穫間際まで湛水管理を行う。

令和6年4月

アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 圃場の準備

- ・前年の秋（圃場が乾く時期）に、耕起から代かき、溝切りまでの作業を実施しましょう。

<耕起・代かき・溝切り 作業の流れ>

畦塗り

湛水後の減水深を小さくするために、畦塗りは、丁寧に行いましょう。

土改剤散布

基肥は、窒素のみの施肥であることから、「PK ケイ酸 40～60kg/10a」を必ず施用しましょう。

耕起

代かき

均平に心掛け、浅水で前作の作物残渣を確実にすきこみましょう。代かき後は、自然減水とするか、水の濁りが落ち着いてから落水しましょう。

溝切り

圃場の外周部や乾きにくい部分に、排水溝を設置し、圃場全体を均一に干しましょう。

<排水溝の設置例>



乾きにくい部分に管理機を走らせる



畦塗りと同時に額縁排水溝を設置
(隣接の圃場から漏水が懸念される場合は、
深めに額縁排水溝を設置する。)

2. 種子の準備

- ・目標の苗立ち数 150～200 本/m² (m間 30～40 本) を確保するため、播種量は、乾粃で 10a 当たり 6～8 kg としましょう。
- ・播種時期が早いほど、出芽に時間がかかるため、播種量は時期に応じて調整しましょう。

(例) 4月 10～20 日播種：8 kg/10a 程度

4月 20～30 日播種：6 kg/10a 程度

- ・腐敗粃等の発生を防ぎ、苗立ちを確保するため、**キヒゲンR-2フロアブル** (乾燥種子 1 kg 当たり原液 20mL を塗抹処理) による種子消毒を行いましょう。



キヒゲンR-2フロアブル塗抹後の種子

3. 播種作業

- ・播種は、4月中旬～下旬で、圃場が十分に乾燥した状態で播種しましょう。

<播種時の土壤水分の目安>

適正水分状態で
播種した圃場



トラクタのラグ跡はあまり残らない
V溝が高い精度で形成されている (深さ 5 cm、幅 2 cm)
少し覆土されている

水分が高い状態で
播種した圃場



V溝の形成が不完全なので、鳥害を受ける可能性が高い

過乾燥の状態で
播種した圃場



V溝の形成が崩壊

- ・基肥は、「LPss 乾田直播専用」肥料を使用し、窒素施用量は、原則として、「移植慣行 + 2 kg/10a」としましょう。

<施肥量の目安>

土壤区分	施肥量 (10a 当たり) 目安	
砂壤土	LPss 乾田直播専用 (40-0-0)	23～25kg
壤土・黒ボク		21～23kg
粘質土		19～21kg



※乾田直播専用肥料には、リン酸、カリが含まれていないので、代かき前に、「PK けい酸 40～60kg/10a」を施用しましょう。

4. 水管理

(1) 播種～2週間

- ・近年、播種後に無降雨が続き、土壌が乾燥して稲の発芽が遅れる圃場が見られます。
- 出芽を促進するため、「播種後3日までに通水処理」を行いましょ。

※覆土が十分されており、土壌が湿っている場合は不要。

- ・その後も、好天が続き土壌が乾く場合は、適宜通水処理を行い、出芽を促進しましょ。
- ・通水の際は、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょ。

いつもより
ゆっくり入水



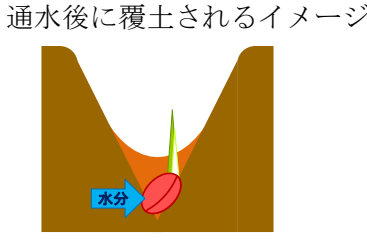
播種後の通水処理



播種後に、無降雨日が続き、土壌が乾燥し覆土がされていない。⇒出芽が遅れる。



通水により、軽く覆土され、種子に水分が供給されることで、出芽が促進されます。

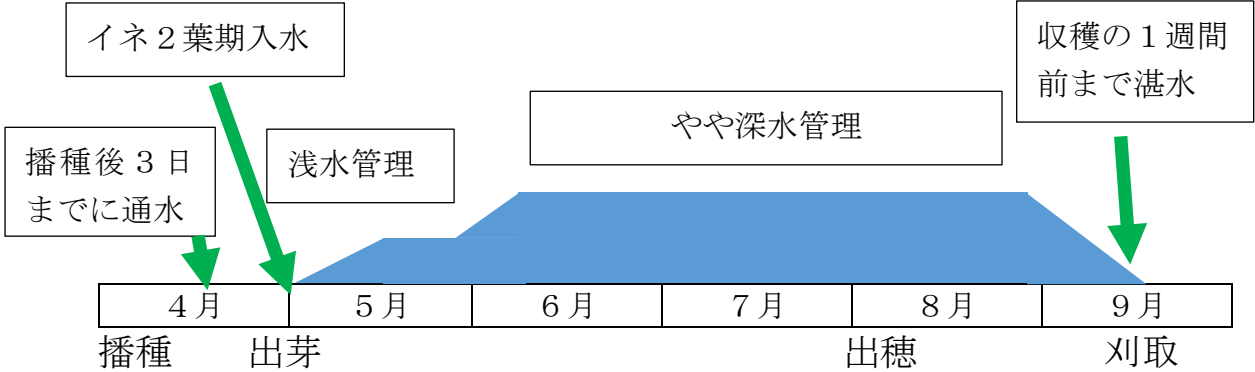


(2) 稲2葉期頃

- ・出芽している個体 150～200 本/m² (m間 30～40 本) の内、第2葉展開中の個体が半数程度になったら入水し、田面が露出しないように、湛水状態を保持しましょ。

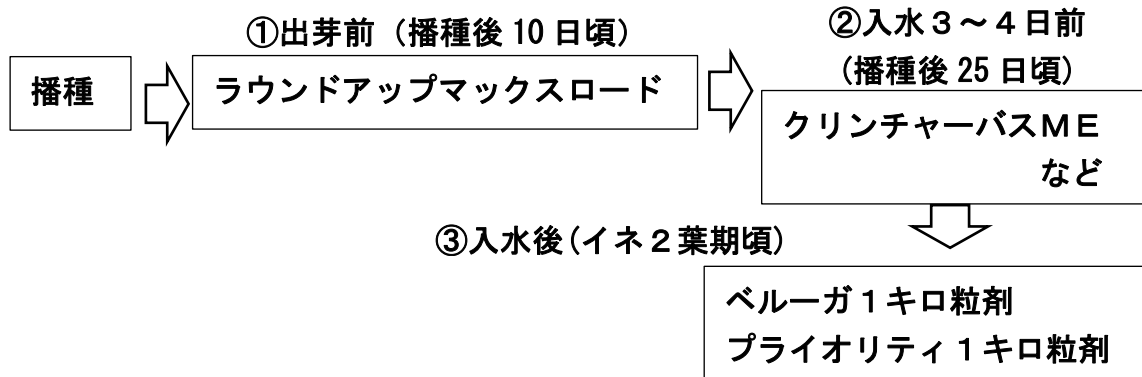
(3) 収穫1週間前まで

- ・抑草効果と肥効を持続させるため、収穫の1週間前まで湛水状態を保ちましょ。
- ・地耐力が確保されているため、中干しは行いません。



5. 雑草防除

・基本体系（播種後日数は、4月下旬播種の目安）



散布時期等	除草剤名	散布量 (/10a)	使用上の注意
①出芽前 (播種後10日頃)	ラウンドアップマックスロード ※1	200~500mL 希釈水量 25~50L	<ul style="list-style-type: none"> ・散布が遅れると、イネが出芽して、薬害を受けるので、注意する。 ・周辺の圃場に飛散しないよう注意して散布する。
②入水3~4日前 (播種後25日頃)	クリンチャーバスME液剤	1,000mL 希釈水量 70~100L	・展着剤は加用しない。
	トドメバスMF液剤	1,000mL 希釈水量 100L	・展着剤は加用しない。
③入水後 (稲2葉期)	ベルーガ1キロ粒剤	1 kg	・ノビエ2.5葉期まで (ただし収穫75日前まで)
	プライオリティ1キロ粒剤 ※2	1 kg	・ノビエ3葉期まで (ただし収穫90日前まで)

※1 ラウンドアップマックスロードを散布できなかった場合は、雑草の発生状況を確認し、早めにクリンチャーバスME液剤等の液剤を散布しましょう。

※2 プライオリティ1キロ粒剤の収穫前日数は90日のため散布後90日間はWCSとして収穫できなくなるので、WCS稲には使用しない。

【雑草の多発生が懸念される圃場のみ】

(ラウンドアップで雑草を枯らした後に散布すると効果的です。)

マーシェット乳剤：

使用時期：乾田直播の播種直後～出芽前（雑草発生前）（入水15日前まで）

散布量：1000~1500mL、希釈水量50~100L

6. 病虫害防除

直播は、移植と違い苗箱施薬による防除を行わないため、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどの害虫や、いもち病の防除が必要となります。

(1) イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

・発生が見られたら、5月下旬～6月上旬に以下を参考に防除してください。

対象害虫	防除の目安	薬剤名	使用量 (/10a)	使用上の注意点
イネミズゾウムシ	成虫数 3.0頭 /10株	トレボン 粒剤	2～3kg	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水状態（3～5cm）で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも4～5日間は湛水状態を保つ（7日間は、落水、かけ流しはしない）。
イネドロオイムシ	成虫数 0.5頭 /10株	トレボン 粉剤DL	3kg	<ul style="list-style-type: none"> ・前年多発した圃場等では発生状況を必ず確認する。



イネミズゾウムシ(成虫)と食害



イネドロオイムシ(幼虫)と食害

(2) いもち病

・下記の薬剤で、確実にいきましょう。

対象害虫	薬剤名	散布時期	使用量 (/10a)	使用上の注意点
いもち病	ルーチン粒剤	6月15日頃	1kg	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布する。 ・散布後少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。

(3) その他の病虫害防除

・移植に準じて防除を行ってください。